

vue.js 関係

laravel ではデフォルトで package.json に記録されているので
npm i
ですぐに使えるようになる。

```
"devDependencies": {  
  "axios": "^0.19", . . . 非同期処理のやつ。Vue.js と抱き合わせで使う事が  
多い。  
  "bootstrap": "^4.1.0", . . . お手軽 CSS フレームワーク  
  "cross-env": "^5.1",  
  "jquery": "^3.2", . . . いつもの  
  "laravel-mix": "^4.0.7",  
  "lodash": "^4.17.13", . . . js の関数関係をパッケージ化した物  
  "popper.js": "^1.12",  
  "resolve-url-loader": "^2.3.1",  
  "sass": "^1.15.2", . . . いつもの  
  "sass-loader": "^7.1.0",  
  "vue": "^2.5.17" . . . いつもの  
}
```

vue を扱う為の書き方

template . . . 代入予定の html を記入する所

```
//インストールした bootstrap の読み込み  
require('./bootstrap');
```

```
//インストールした vue を window.Vue に代入して管理する処理  
window.Vue = require('vue');
```

//上で代入して管理している Vue 情報を元に component を作成。その後 view で
使える様にしている。

//第一引数:view ファイル内で取り扱う為の名前を決める部分。

//第二引数 : 管理場所の指定。

```
Vue.component('example-component',  
require('./components/ExampleComponent.vue').default);
```

//上で作成した Vue コンポーネントを元にインスタンス作成。app 定数に代入して
いる。el: '#app'は view にある id="app"に適用させる為の処理。

```
const app = new Vue({  
  el: '#app',  
});
```

Vue コンポーネント内に php からの情報を送信したい場合
例

```
<example-component title="{{__('Practice').'|'.'$.drill-  
>title.'|' '}}":drill="{{{$drill}}}"></example-component>
```

- 1.単体のレコードの送受信をしたい場合はそのまま変数を定義する要領で書く。
- 2.複数の情報をまとめて送受信したい場合は代入先の変数(?)に:(コロン)をつけて管理する。

コンパイル関係

resource/js にある Vue.js ファイルと app.js。ほかの素材関係も public/app.js ファイルへコンパイルしないといけない。

コンパイル方法は
npm run dev

この際のコンパイルには larval-mix を使っている。(他の時は glup などのタスクランナーを使ったりしている。

vue.js->js へ。Sass->css にしたりする。

laravel-mix 内では初めから基本的なコマンドは設定されている。

```
// 全タスク実行  
npm run dev
```

```
//全タスク実行を実行し、出力を圧縮。  
npm run production
```

```
//ファイルの変更を監視し、自動でタスクを実行する。  
npm run watch
```

タスクは webpack.mix.js に記述されている。
const mix = require('laravel-mix');

...

コンパイルのスクリプト

```
webpack.mix.js  
mix.js('resources/js/app.js','public/js')  
    .sass('resources/sass/app.scss','public/css');
```

<https://readouble.com/laravel/5.8/ja/mix.html>

vue.js は template.script 両方エラーが無い状態にしないと読み込まれない。

